

第3学年2組 国語科「読むこと」学習指導案

授業者 渡邊 麻衣子

金子みすゞ・岸田衿子の詩を楽しみながら読もう

～自分の感性を大切にしながら読み、音読の仕方を工夫する～

第3学年C読むこと（ア・オ） 伝国（1）イ（ア）

言語活動例Cーア

1 単元の目標

- (1) 詩を楽しんで音読しようとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 詩のそれぞれの連の内容とその関係を理解し、音読している。【Cア】
- (3) 音読の発表を聞いて感想を交流することで、互いの感じ方や考え方の違いに気付いている。【Cオ】
- (4) 友達の発表を聞いて思ったことや考えたことを適切な言葉で表している。【伝国イ（ア）】

2 教材名

詩を楽しもう わたしと小鳥とすずと／山のとっぺん（光村図書3年）

3 児童の実態

男子14名、女子10名（女子1名特別支援学級在籍）の計24名の学級である。全体的に明るく素直な児童が多く、休み時間には外に出て、汗だくになって遊んでいる。自己主張が強い児童は少なく、比較的大人しく何事も慎重にとりくむことができる。

2年生の頃から、ペアやグループ、自由な話し合い活動を行ってきているようで、話し合いに関し抵抗感なく行うことができる。話し合いをした後は、自信をもって発言している様子が伺える。

3年生の最初の単元「詩を楽しもう／どきん」の学習の際に、擬声語・擬態語や文末表現の響き、リズムからの様子を想像し、それらが表れるように声に調子をつけて音読した。言葉の調子や早さ・強弱・間の取り方を意識しながらも、「どんなイメージをもって表現してもよい」この詩は、クラス替えした3年生の最初の授業にぴったりであり、想像したことを声の調子などに表すという、中学年での音読学習の導入になった。

日々のとりくみでは、日記や朝の日直スピーチを行っている。日記では、学校や家でのことや思ったこと・考えたこと、出来事など自由に書いている。最近では、季節の変化に目を向けたり、不思議に思ったり不満に思っていることなどを書いてくる児童が多くなった。しかし、書くことに時間がかかったり、抵抗感を感じたりしている児童もいる。朝のスピーチでは、話の中心に気をつけて聞き、一言質問ではなく、話し手の内容について自分の経験や感想を付け加えて述べるようにしている。構成を意識せずに話す児童も多いが、聞くことを意識して行っている。

全体的な課題として、友達の考えや話の内容、工夫を聞いた上で、それをふまえて自分の考えや感想を伝えることが苦手であると感じる。自分の考えをもち、友達の意見や考えを聞き、比べたり深めたりする力をつけていけるよう指導していきたい。

4 指導の内容と言語事項、教材のかかわり

- (1) 言語活動設定の意図

○目的意識 ・自分の感性を大切に、互いの感じ方や考え方の違いに気付くために、音読会をす

る。

- 相手意識 ・友達に対して音読を発表する。
- 場面状況意識 ・自分の工夫した所を伝え合う場面で、ペアやグループ活動を取り入れる。
- 方法意識 ・自力で読むときに、視点を用意することを通して、音読の工夫の仕方を考えられる。
- 評価意識 ・音読するときに、選んだ理由や自分の工夫したところを述べ、視点を与えてから行う。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

主体的な学びの視点から

「金子みすゞ・岸田衿子の詩を楽しみながら音読し、自分の感想を交流する」という言語活動を、学習のゴールとし、学習活動に必然性を持たせる。

対話的な学びの視点から

児童が自分の感じた作者の思いや詩の情景を深く追求できるようにするために、自力で読むための観点を与え、詩に真剣に向き合う時間を確保する。また、ペアやグループでの活動を取り入れ、自分が感じた詩の情景や思い・考えを自由に交流する場面を設けるようにする。

深い学びの視点から

一人ひとりの詩の捉え方を大事にししながら、短い言葉からどんな印象を受け、どのように読み方を工夫したのかをお互いが交流することにより、他者との感じ方や考え方の違いに気づくことができ、詩に対するそれぞれの感想が深まっていくようにさせたい。

(3) 教材の特徴

「わたしと小鳥とすずと」は、3連で構成されている。第一連と第二連は、形の上からも意味のうえからも対になっている。全体の構成は、第一連で「わたし」と「小鳥」を比較し、第二連では、「わたし」と「すず」を比較し、第三連は、それをまとめるという形になっている。四音、四音、五音の行と七音、七音の行を基本としているが、それらが単なる繰り返しに終わっていないために、語りかけるような独特なリズムが生まれている。また、この作者の詩の大きな特徴は、柔らかな感性や繊細な語感にある。この詩自体は、音数といい、対の形といい、形式的にも理解しやすいが、形を追って無味乾燥な解釈にならないようにしたい。児童の活動においても、音読を繰り返す時間を確保していく。

「山のとっぺん」は、二連で構成されている。形式的には、第一連と第二連の行数、一行目の「～みよう」という表現は同じである。しかし、第一連と第二連が若干異なる構成をとっており、第一連の内容を受けた形で第二連が展開されている。そして、「作者が見ているもの」つまり対象をうたいながら、その対象を通して「見つめているもの」がある。それが「感動の中心」であり、作者が本当にうたいたかったものである。

二つの作品は、いずれも連ごとに内容のまとまりがはっきりしており、連と詩の組み立てについて意識をもって詩を読む学習に適している。同一教材内で二つの詩が並ぶことで、それぞれの詩の特徴やテーマがよりよく理解できる。二つのうちどちらか好きな方を選んだり、読み比べたりすることを通して、それぞれの詩のよさを味わい、そこから感じられたことや作品に対する自分の考えなどを自由に話し合わせたい。音読の工夫は、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意しながら、聞き手が情景をイメージできるようにする。どちらの詩も、日常におけるふとした気づきを表した作品である。気にかけることがなければ気づかないことや、やってみてはじめて分かったことへの驚きや喜びが、素直な言葉で表現されている。児童は、まったく同一ではないが類似した経験をさまざまに想起し、共感を覚えながら楽しく読み進めることだろう。この二作品を読むことを通して、詩がどのように構成されているか、連と連との関係はどのようになっているかなど、形式的な特徴にも目を向けさせながら内容を理解していくという詩の読み方を認識させたい。

5 指導計画と評価計画（C領域「読むこと」3時間中の3時間）

(1) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力
①詩を楽しんで音読しよう としている。（関）	①詩のそれぞれの連の内容とその関係を理解し、音読している。（ア） ②音読の発表を聞いて感想を交流することで、互いの感じ方や考え方の違いに気付 いている。（オ）

(2) 指導と評価の計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
1	1	①学習課題を設定する。 ②「わたしと小鳥とすず と」を音読し、詩の特徴 を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「好きな詩を選んで工夫して音読会しよう」という学習課題を設定して関心を持たせる。 ・四音・四音・五音の行と七音・七音の行の言葉の構成がリズムを生み出していることを知る。 ・自力で読むための観点5つを提示する <ul style="list-style-type: none"> ①いい言葉だなと思ったところ ②気持ちがよくわかったところ ③書き表し方で工夫していると思ったところ ④様子をはっきりうかんできたところ ⑤心に強く残ったところ ☆みすゞさんは、どんなことを言いたかったのかについても考えられるようにする。 ・詩の構成を意識しながら音読をさせる。 	関①（観察） 読①（ワークシート） 読①（観察）
	2	①本時の学習課題を確認 する。 ②「山のでっぺん」を音読 し、詩の特徴を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「二つ目の詩を学び、好きな詩を選ぼう」という学習課題を設定して関心を持たせる。 ・「『でかけてみよう』とはどこへいくのか」「『さわってみよう』とは何をさわるのか」「『絵はがきの夏は動かない』とはどういうことなのか」などを問いかけながら内容を捉えさせる。 ・自力で読むための観点5つを提示する <ul style="list-style-type: none"> ①いい言葉だなと思ったところ ②気持ちがよくわかったところ ③書き表し方で工夫していると思ったところ ④様子をはっきりうかんできたところ ⑤心に強く残ったところ ☆衿子さんは、どんなことを言いたかったのかについても考えられるようにする。 ・詩の構成を意識しながら音読をさせる。 	読①（ワークシート） 読①（ワークシート）

			・二つの詩から気に入った詩を選び、選んだ理由や工夫したいところを考えさせる。	
2	1 本 時	①グループの中で、詩を選んだ理由や工夫したところを発表し、音読会をする。 ②お互いの音読を聞き、質問し合ったり感想を言い合ったりする。	・詩の音読の仕方の工夫も述べられるようにさせる。 ・アドバイスをしたり、疑問に思ったりしたことは付箋に書き込んでから、発言させる。 ・アドバイスをもとに再度音読をし、もう一度評価させる。 ・詩の授業を通して、感想を書かせる。	読②（ノート） 話・聞①付箋

6 本時の指導

- (1) 日時 平成29年8月30日（水）
- (2) 対象 3年2組 児童24名
- (3) 目標 自分が感じたことが相手に伝わるように工夫して音読することができる。
- (4) 授業の展開

展開	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
つかむ (5分)	1 「わたしと小鳥とすずと」と「山のてっぺん」を音読する。 2 本時の学習のめあてを確認する。		
		自分が感じたことが相手に伝わるように工夫して音読しよう。	
深める (12分)	3 選んだ詩を音読する際に、自分の感じた思いや読み方が伝わるようにするための工夫を考える。 4 自分の工夫したところが伝わるように音読の練習をする。	・言葉に注目し、自力読みの際の5つの観点を参考にしながら、「心に残った言葉だから、間を空ける」、「〇〇の言葉から、こんなイメージをもったから強弱をつける」などを具体的に書かせる。	読①(ワークシート)

発表する (23分)	<p>5 同じ詩を選んだグループの中で、発表し、感想を述べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな理由や工夫を話してから音読する。 友達の音読を聞いて、よいところをピンク色の付箋に書き、アドバイスを青色の付箋に書く。 <p>7 全体で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人のグループを作り、交流する。 きちんと評価してもらえるように、選んだ理由や工夫した観点をきちんと述べるように伝える。 色別の付箋を使って、よいところ直すところを、一目で見分けられるように配慮する。 時間があれば、改善した音読を再度聞いてもらう。 それぞれの詩から2名程指名し、全体での共有を図る。 	読①(発表・音読)
5分 まとめる	8 学習感想を記入する。	自分の詩の読み方や感じ方はどうだったのかを友達の工夫と比較したり付箋に対する改善点を書かせたりする。	読①(ワークシート)

(5) 本時の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力
①詩を楽しんで音読しようとしている。(関)	①詩のそれぞれの連の内容とその関係を理解し、音読している。(ア)

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	支援を必要とする児童への手立て (C)
選んだ詩について、自分が工夫したい読み方が明確であり、相手に伝わるように音読している。	選んだ詩について、自分の工夫したい読み方を楽しんで音読している。	自分が気に入った詩の言葉を選ばせ、どのように読んだら気持ちが伝わるか考えさせ、工夫の仕方の方法を提示する。

【成果】

- 夏休み明けの授業ではあったが、児童が集中して取り組んでいた。
- 一つの詩に対して詩の場面を想像しながら、じっくり読んだり深めたりすることができた。
- 音読発表の感想を2色の付箋(よいところはピンクの付箋・アドバイスは青の付箋)を用いて行い、ピンクの付箋をもらうことで意欲付けになった。

【課題】

つかむ

- 一斉読みをさせた時に、感情を込めて工夫して読んでいる子どもが何人かいた。全体の中でお手本として読ませてもよい。

深める

- ・ここで時間をかけすぎてしまい、練習する時間を十分に取ってあげることができずに発表する形になってしまった。音読の時間でもあるので、もっと声を出す機会を保障してあげることが大事である。
- ・自分で練習したり友達にアドバイスをしたりすることを並行にしながら行くと、より自分の音読の仕方が深まった。

発表する

- ・「山のてっぺん」では、工夫して読みたい箇所が同じ児童の工夫の仕方が、異なっていたので比較すると面白い。一方は「大きい声で読みたい」、一方は「小さい声で読みたい」
- ・付箋の感想やアドバイスは、音声のみに固執していた。本時は内容を伝えることが目標だったので、指示の仕方を工夫すべきだった。

【考察】

- ・子どもたちは自分なりに詩に向き合って、一つ一つの言葉や筆者の思いを想像しようと一生懸命とりくんでいたのも、別の詩でも挑戦させたい。
- ・自分が感じたことを音読で表現することは難しいことだったが、伝えるためにはどんな読み方をするとよいかを考えさせ、それらを継続して行っていくことが大事であると感じた。
- ・詩の言葉から受けた感じ方は同じでも、表現の仕方は様々あるということを追究していく。
- ・何をさせたいのかを明確に伝え、意図していることが児童に伝わるような指示を出していく。

【まとめ】

- ・参考文献

感性の人 金子みすゞの詩の授業化 大越和孝 著 明治図書

- ・資料 「ワークシート」

The image shows four panels of handwritten text, labeled A, B, C, and D, representing student feedback and reflections. Panel A is written in red ink and discusses the importance of reading with a clear voice. Panel B is written in black ink and compares reading techniques. Panel C is written in black ink and discusses the importance of reading with a clear voice. Panel D is written in black ink and discusses the importance of reading with a clear voice.

A 感想 (ふせんのアドバイスについて、どう思ったか・どうしていいか。友だちの詩の感じ方・読み方を聞いてどう思ったか)
ふせんよりものどくうううでやるように
します。みんなの発表が金子みすゞ
さんのかいた詩の中のみんなちがってみん
ないのようにくううがちがうけてみん
ないと思ひました。

B ③感想 (ふせんのアドバイスについて、どう思ったか・どうしていいか。友だちの詩の感じ方・読み方を聞いてどう思ったか)
みんな工夫するところが同じだった子も、
たけど、読み方がみんなちがって、こいうゆう
読みかたがあるんだなあと思ひたりして、
とてもみんなの読み方がきけてよかったな
あと思ひました。また音読会ができればいいと思
ひました。

C みんな言い方を工夫していいと思ひ
ました。あと金子みすゞさんやきし田えり子
さんの詩も読んでみたいと思ひました。

D ③感想 (ふせんのアドバイスについて、どう思ったか・どうしていいか。友だちの詩の感じ方・読み方を聞いてどう思ったか)
も、うなまうと雲がつかめると思ひた
のいきを、ゆっくりにすればよかつた。
何も無いなるところを、
ゆっくりに声をひくくして
読めばよかつた。

F

その一 いい言葉だと思っただころ
その二 気持ちがよくわかってる
その三 書き表し方で工夫してると思っただころ
その四 書き表し方で工夫してると思っただころ
その五 書き表し方で工夫してると思っただころ



わたしと小鳥とすずと
わたしは両手をひろげても
お空はちつともとべないが
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない

わたしはからだをゆすつても
きれいな音は出ないけど
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんなうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それからわたし
みんながつて、みんないい

自分がかんじたことを音で表すように
音で表すように

理由(音・構成・内容・表現など)

① 理由(音・構成・内容・表現など)
② 自分が工夫したところを伝えてから音読しよう

わたしは、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、
地面をはやくは走れない。

わたしはからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんなうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんながつて、みんないい

△はやく ●強く ○弱く
☆声を高く ★声をひく
♡口調 ○○○のよう

それをいいは、自由に書きこむ。

わたしと小鳥とすずと
金子みすず

わたしは両手をひろげても、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない。

わたしはからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんなうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんながつて、みんないい

E

わたしと小鳥とすずと
金子みすず

その一 いい言葉だと思っただころ
その二 気持ちよくわかってる
その三 書き表し方で工夫してると思っただころ
その四 書き表し方で工夫してると思っただころ
その五 書き表し方で工夫してると思っただころ



わたしは両手をひろげても
お空はちつともとべないが
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない

わたしはからだをゆすつても
きれいな音は出ないけど
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんなうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんながつて、みんないい

自分がかんじたことを音で表すように
音で表すように

理由(音・構成・内容・表現など)

① 理由(音・構成・内容・表現など)
② 自分が工夫したところを伝えてから音読しよう

わたしは、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない。

わたしはからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんなうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんながつて、みんないい

それをいいは、自由に書きこむ。

わたしと小鳥とすずと
金子みすず

わたしは両手をひろげても、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない。

わたしはからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんなうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんながつて、みんないい

⑤ 詩をじっくり読もう
 山のとっぺん 岸田 衿子

その一 い言葉だと思っただころ
 その二 気持ちよくわかったころ
 その三 書き表し方で工夫して思っただころ
 その四 衿子がはつきりうかんできたころ
 その五 心に強く感じたころ



でかけてみよう きはじめに二歩
 あとは だまって歩くだけ
 なんだ 山のとっぺんて ひらたいのか?
 何にもないな

雲がつかめると思ったのに
 だこへでも かけてみると
 思いがけないことがある

さわってみよう はじめはそうとどくぞろ
 凶鑑の中のクワガタは 怒らなかつた
 木の幹にしがみついている肢は
 こんなにねばり強いキも
 やつぱり かけてみよう
 雲と湖のあるほうへ
 絵はがきの夏は うごかないから

⑤ 自分が工夫したところが相手につたあるように
 理由(音・構成・内容・表現など)

① 理由(音・構成・内容・表現など)

② 自分が工夫したところを伝えてから音読しよう。

わたしは、
 詩の言葉
 でかけてみよう

① 理由(音・構成・内容・表現など)

② 自分が工夫したところを伝えてから音読しよう。

わたしは、
 詩の言葉
 でかけてみよう

そのことがつたわるように
 読みかたのポイントを
 ぶんをめぐりよめ

さつこ...
 ↑えらんりりゆうはいちばん
 きらりえりきえがたえたいと
 おもたぬもしれぬからばく
 がつたえたい

こんなねばり強い
 やつぱり かけてみよう
 雲と湖のあるほうへ
 絵はがきの夏は うごかないから

G

⑤ 山のとっぺん 岸田 衿子
 2. さわってみよう

その一 い言葉だと思っただころ
 その二 気持ちよくわかったころ
 その三 書き表し方で工夫して思っただころ
 その四 衿子がはつきりうかんできたころ
 その五 心に強く感じたころ



山のとっぺん 岸田 衿子
 2. さわってみよう

あとは だまって歩くだけ
 なんだ 山のとっぺんて ひらたいのか?
 何にもないな

雲がつかめると思ったのに
 だこへでも かけてみると
 思いがけないことがある

さわってみよう はじめはそうとどくぞろ
 凶鑑の中のクワガタは 怒らなかつた
 木の幹にしがみついている肢は
 こんなにねばり強い
 やつぱり かけてみよう
 雲と湖のあるほうへ
 絵はがきの夏は うごかないから

⑤ 自分が工夫したところが相手につたあるように

① 理由(音・構成・内容・表現など)

② 自分が工夫したところを伝えてから音読しよう。

わたしは、
 詩の言葉
 でかけてみよう

そのことがつたわるように
 読みかたのポイントを
 ぶんをめぐりよめ

さつこ...
 ↑えらんりりゆうはいちばん
 きらりえりきえがたえたいと
 おもたぬもしれぬからばく
 がつたえたい

こんなねばり強い
 やつぱり かけてみよう
 雲と湖のあるほうへ
 絵はがきの夏は うごかないから

① 理由(音・構成・内容・表現など)

② 自分が工夫したところを伝えてから音読しよう。

わたしは、
 詩の言葉
 でかけてみよう

そのことがつたわるように
 読みかたのポイントを
 ぶんをめぐりよめ

さつこ...
 ↑えらんりりゆうはいちばん
 きらりえりきえがたえたいと
 おもたぬもしれぬからばく
 がつたえたい

こんなねばり強い
 やつぱり かけてみよう
 雲と湖のあるほうへ
 絵はがきの夏は うごかないから

